

東京国立 博物館

第695号
展示と催し物
案内

2009

67

月号

2-3 ● 特別展 「染付—藍が彩るアジアの器」

4-5 ● 第62回式年遷宮記念 特別展 「伊勢神宮と神々の美術」
次回特別展予告

6-11 ● 平常展見どころ案内 2009年6月・7月

国宝 上野国交替実録帳残卷(延喜式卷第三十二紙背)
特集陳列「平成20年度新収品」/ 特集陳列「海外の日本美術品の修復」/
特集陳列「世界図と日本図」/ 特集陳列「戦う武士の世界」/
特集陳列「武家の服飾」/ 特集陳列「年中行事」/
特集陳列「内国勸業博覧会の工芸」/ 特集陳列「写された黒田清輝II」/
歌舞伎図屏風/ 松巒古寺図/ 鼠志野鶴文鉢/ 菩薩立像

12-13 ● 教育普及事業 親と子のギャラリー「日本美術のつくり方」/
ワークショップ/ 高校生のための連続講座/ 講演会/ 列品解説

14-15 ● INFORMATION ● TOPICS

16 ● 2009年6月・7月の展示・催し物



染付

藍あゐが彩いろどるアジアの器うつわ

SOMETSUKE —
The Flourishing of Underglaze
Blue Porcelain Ware in Asia

アジアに広がる染付

染付そめつけとは白磁びやくじの素地すぢにコバルトを含んだ顔料りやうりつを用いて筆彩ひつさいで文様もんじやうをあらわす技法ていぽうをいいます。透明釉とうめいゆうを掛けて焼成やうせいすると文様もんじやうは鮮やかな藍色あゐいろに発色はつしきします。中国ちゆうごくでは唐時代たうたいにすでに先駆せんこ的な作例さくれいがあることが明らかになりましたが、染付そめつけの技術ぎゆうと様式ようしきは、江西省しやんしやうせいの景德鎮ていせつちんにおいて元時代げんたいに完成せいせいされます。明時代めいたいには宮中きゆうちゆうの御用品ぎよぶひんを焼く官窯くわんやうでも採用さいようされ、以後いご磁器じきの装飾さうじきの主流しゆうりゆうとなって今日こんにちに至ります。染付そめつけの技術ぎゆうはその後のちベトナムべトナムや朝鮮ちゆうせん

日本にっぽんに伝わり、各地あちこちでそれぞれに個性こせい豊かな染付そめつけが焼やけられました。この展覧会てんらんかいではアジア各国あじあこくで焼やけられた染付そめつけを単ただに地域別ちいきに分類ぶんるいして展示てんしするのではなく、製品せいひんの流通りゆうつうや技術ぎゆう・様式ようしきの交流かうりゆうも視野しよびに入いれたい。たとえば、東洋とうやうの染付そめつけの大きな流れなれを眺ながめたい。そして、染付そめつけの優品ゆうひんを一堂いつやうに集あめることにより、染付そめつけの特性ていしやく、時代じだいや地域ちいきによる多様性たさうせいを明らかにします。



▶▶▶ 青花唐草文水差 中国・景德鎮窯「大明宣徳年製」銘
明時代・宣徳年間(1426~1435) 個人蔵
美しい白色の素地には橘皮文(きつぽもん)とよばれるかすかな凹凸がみられます。器形は西アジアの金属器にならったもの



▶▶▶ ◎青花蓮池魚藻文壺 中国・景德鎮窯
元時代・14世紀 大阪市立東洋陶磁美術館蔵
力強い曲線で構成された文様は、あたかも回り灯籠(とうろう)のように展開してゆきます

中国

端正な器形きけいの美しさ、滋味じ深い釉色ゆうしきの美しさを追求すいしゆうした宋時代そうたいの陶磁器たうじきに対して、元時代げんたいの染付そめつけが打ち出した新機軸しんきじくは、生き生きとした動きをもった文様表現もんじやうへんげんにあります。力強い筆線ひしせんであらわされた文様もんじやうは、あたかも回り灯籠まわりとうろうのように展開てんかします。一方、明時代めいたいの官窯くわんやうでは、優美な文様もんじやうを描くことにより精妙な白磁びやくじの膚はだの美しさを際立たせる、格調高い様式ようしきの染付そめつけが作られました。明時代後期めいたいごうきになると色彩しきへの関心かんしんの高まりとともに、藍色あゐいろの華やかさを強調する染付そめつけがあらわれます。

▶▶▶ 関連事業

平成21年度連続講座 「東洋の染付」

特別展「染付—藍が彩るアジアの器—(7月14日~9月6日)」に関連した3日間の講座です。

講師…今井敦(当館東洋室長)、荒川正明氏(学習院大学教授)、矢島律子氏(町田市立博物館学芸員主任)、片山まび氏(東京芸術大学准教授)、三笠景子(当館保存修復室研究員)

日時…7月18日(土)・19日(日)・20日(月) 13時~16時
会場…平成館大講堂
定員…380名(事前申込制)
受講料…1,000円

※3日間連続して受講できる方を対象としています。
申込方法…往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記して左記までお申込ください。

T1108712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育講座室「連続講座」係
1枚の往復はがきで1人の応募となります。応募多数の場合は抽選の上、受講券をお送りします。

記述不備があった場合は落選とさせていただきます。
締切…6月26日(金)必着



ベトナム・朝鮮

染付の技法はほどなくベトナム、朝鮮に伝えられました。ベトナムでは白化粧を施した温かみのある素地にたおやかな線で文様をあらわした温かな様式の染付が焼かれました。朝鮮では宮廷画家が筆をふるった気品あふれる染付が作られ、やがて温和な光沢をもつ素地に余白を生かして楚々とした文様をあらわす秋草手が完成されました。



▶▶◎染付蓮鷺文三足皿 銅島
江戸時代・17～18世紀 佐賀県立九州陶磁文化館蔵
地を薄くむらなく塗りつめる完璧な技巧によってあらわされた白鷺の姿が印象的です

そして日本へ

磁器は硬く無機質で、ややもすると冷たい印象を与えることもありますが、身近な題材が染付で描かれることにより、より親しみ深いものとなりました。明時代末の景德鎮窯では、変化に富んだ意匠の染付がさかんに作られ、世界中に運ばれてゆきました。その中には古染付や祥瑞のように日本の文化の中で大きな役割を果たした染付もあります。

日本では江戸時代初頭に朝鮮半島から渡来した陶工によって技術が伝えられ、九州肥前有田において染付の生産が始まりました。当初は中国の染付を模倣していましたが、輸出向けの磁器を受注したことを契機に長足の進歩を遂げ、繊細なダミ染め、すなわち薄めたコバルト顔料で塗りつぶす技法を駆使した日本独自の優美な様式が完成されます。

また、染付は堅牢で実用性に富む性質から、江戸時代後期には量産され、人々の生

▶▶染付吹墨椿文大皿 伊万里
江戸時代・18世紀
吹墨(ふきずみ)技法による地文は、陽光を受けて輝く椿の葉をイメージしたものかもしれません



活に深く浸透し親しまれてきました。昭和十八年(一九四三)に元商工省陶磁器試験所長の平野耕輔氏より御寄贈を受けた伊万里染付大皿五十五枚を展示するコーナーを設け、さらに「使う」視点を取り入れた展示方法の一部で取り入れることにより、実用の器である染付の魅力に迫ります。

染付は中国では青い文様という意味で「青花」、英語では「ブルー・アンド・ホワイト」といいます。日本では藍染を思わせることから、染付とよばれるようになり、室町時代の文献より用例がみられます。染付の名は、単に色をいうばかりでなく、釉薬を通して見る文様が少し滲んだ調子や、人々の日常に密着した染付の性格をよく言い当てていると思います。さまざまな表情をもつ染付の数々を、よりいっそう身近に感じていただくことができれば幸いです。

(今井敦)

特別展「染付——藍が彩るアジアの器」 7月14日(火)～9月6日(日) 東京国立博物館 平成館特別展示室第1・2室

観覧料：一般1,000円(800円/700円)、大学生800円(600円/500円)、高校生600円(400円/300円) ※()内は前売/20名以上の団体料金 ※中学生以下は無料です。入館の際、年齢のわかるものをご提示ください ※障害者とその介護者1名の入館は無料。入館の際に障害者手帳などをご提示ください ※特別展「伊勢神宮と神々の美術」(7/14～9/6)とのセット券：一般1,600円(1,300円)、大学生1,200円(900円)、高校生800円(700円) ※()内は前売料金
お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル) 主催：東京国立博物館 協力：日油株式会社



伊勢神宮と 神々の美術

千三百年の歴史が今に伝える日本の伝統と美

一 神宮の歴史と信仰

伊勢神宮は『日本書紀』、垂仁天皇二十五年三月の条に、皇女倭姫命に託して、伊勢五十鈴川に齋宮をたてまつったと記されており、その条を天文九年（一五四〇）に書写された天理大学本の『日本書紀』（重要文化財）でご覧いただけます。神宮は奈良、平安時代には国家によって運営管理されており、その内容は『延喜式』の大神宮式に窺うことができます。そこには遷宮についても「凡大神宮廿年一度造替正殿」と記されています（図1の3行目）。

また伊勢神宮は皇祖神を祀る神社として天皇家から

尊崇を受けており、皇女が天皇の代理として祭祀を行ってき

ました。その皇女は齋王と呼ばれ、齋王の役所が齋宮でした。齋宮跡は現在の三重県明和町にあり、そこから膨大な土器や木製品が出土しています。今回はそれらの中から、齋宮の役名や役所である「蔵長」、「少允殿」の文字が墨で書かれた土器皿をはじめ緑釉花文皿、円面硯、風字硯を出品します。

神宮は仏教とも関わりを持つようになります。奈良・

二 遷宮と古神宝

遷宮の際に調進された神宝は、次の遷宮の折には神前から下げ

られ、畏れ多いとして火中されたり土に埋められてしまったため、伝世していません。しかし明治二年（一八六九）、内宮の新門造営工事のとき、玉纏太刀をはじめ雑作太刀、高機、櫛などが発見されました。それらの発見された古神宝と応永十七年（一四一〇）に描かれ

皇室はもとより多くの人々の信仰を集める伊勢神宮では、飛鳥時代から現代に至るまで二十年に一度、正殿をはじめ御装束、神宝をすべて造り替え、御神体を新しい宮に遷す遷宮が行われてきました。平成二十五年（二〇一三）には第六十二回の遷宮が行われます。この式年遷宮を記念して開催される「伊勢神宮と神々の美術」展。今回は、展覧会の構成をたどりながら、その見どころを詳しく紹介します。

西大寺の大神宮御正体は金剛界と胎藏界曼荼羅の裏に神の依代である鏡をはめ込んだもので（図2）、西大寺の僧である観尊が深く関わっています。この観尊は文永、弘安年間（一二七八〜八七）に元寇の調伏祈願のため三度神宮に参籠していますが、そのときに感得したといわれる舍利を納めた舍利塔（奈良・西大寺・重文）もあわせて展示いたします。神宮の禰宜である荒木田氏、度会氏も神宮でありながら仏教を信仰しており、経塚造営に関わっています。平治元年（一一五九）に外宮の禰宜度会雅彦の菩提を祈って、朝熊山に埋経された法華経、観普賢経とそれを納めた経筒と、それらとともに納められていた阿弥陀三尊来迎を線彫した鏡像もご覧いただけます（図3）。



図1 ●延喜式（巻四 大神宮式） 延長5年（927） 延喜式は平安時代中期に編纂された律令法の施行細則。20年に1度の遷宮についての記述がある
図2 ●大神宮御正体 鎌倉時代・14世紀 奈良・西大寺蔵 曼荼羅に伊勢神宮内宮外宮を象徴する鏡がはめ込まれている
図3 ●線刻阿弥陀三尊来迎鏡像 平安時代・平治元年（1159） 朝熊山の経塚から出土した鏡像。外宮の禰宜、度会雅彦の菩提を祈って納められた

関連事業

記念講演会

① 7月25日（土）
13時30分〜15時

帝塚山大学教授 関根俊一氏
「古神宝について」

② 8月8日（土）
13時30分〜16時

皇學館大学学長 伴五十嗣郎氏
「伊勢の神宮と日本人―いのちと血統の連続―」

皇學館大学文学部長 清水潔氏
「伊勢神宮と式年遷宮」

会場：平成館大講堂
定員：380名（事前申込制）
無料 ただし「伊勢神宮展」観覧券（半券でも可）が必要

申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号・希望する講演日をお知らせください。

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-28-9
ヤマナシビル（ウイングダム内）「伊勢神宮展」広報事務局講演会①7月25日または②8月8日係

1枚の往復はがきで1日分の講演会、最大2人の応募可。2人の場合はそれぞれ別の氏名を必ず明記して下さい。応募多数の場合は抽選の上、受講券をお送りします。

締切：①7月3日（金）必着
②7月17日（金）必着

御即位20年記念 特別展

「皇室の名宝
—日本美の華—」

前期：
10月6日(火)～11月3日(火・祝)
後期：
11月12日(木)～11月29日(日)
東京国立博物館 平成館

天皇陛下御即位20年を記念して、皇室に護り伝えられてきた美術工芸品など、ゆかりの名宝を紹介する展覧会を開催します。皇室に伝えられてきた美と伝統に触れていただく貴重な機会をぜひお見逃しなく。

主催：東京国立博物館、宮内庁、NHK
特別協力：NHKプロモーション、読売新聞社、日本経済新聞社



唐獅子図屏風 狩野永徳筆
安土桃山時代・16世紀 三の丸尚蔵館蔵



蘭陵王置物 海野勝珉作
明治23年(1890) 三の丸尚蔵館蔵



神宮の神宝の古いものは伝世しませんが、昭和になって、その技術を伝承するため撤下神宝は保存することになりました。遷宮で新たに調進される御装束神宝は七一四種、一五七六点に及びます。それらの昭和に調進された神宝のなかから、御装束や、調度品、武具などを三十四件出品します。いまま遷宮にむけて神宝は製作されており、これらによって木竹工、漆工、染織、金工の技術が伝承されているといっても過言ではないでしょう。

三 今に伝える神宝

た最古の神宝図絵である神宮神宝図巻でいにしえの古神宝をご覧いただきます。あわせて、神宮古神宝と同様の形状を示す沖の島出土の高機や伊勢湾の神島から出土した袴を展示して、比較できるようにします。また神宝は伊勢神宮だけでなく奈良・春日大社、広島・厳島神社はじめ多くの神社にも残されています。それらのなかから鎌倉・鶴岡八幡宮の表着・白地小葵鳳凰模様二倍織(図4)、桂・紫地向鶴三盛文唐織表着や和歌山・熊野速玉大社の桐蒔絵手箱および内容品を出品し、次の章の今に伝える神宝との共通性などを紹介します。

四 神々の姿

古来、神々は姿として彫刻や絵画を通じて表されることはありませんでした。伊勢神宮においてもそれは同様です。この章では近年注目されている神像彫刻について、その優品をご紹介します。神像が作られるようになったのは奈良時代からですが、現存作品はなく、どのようなものであったかはつきりしません。九世紀前半には、当時の貴族の装束である冠と袍を着けた威厳のある表情をした像が作られました。その代表的なものが京都・松尾大社の男神坐像(図5)で、現存する最古の神像と考えられる著名な作品です。また九州の宇佐八幡宮では六年に一度神像が新たに作られました。古い神像は国東半島の奈多八幡宮に遷されました。この奈多八幡宮の八幡三神坐像のほか、熊野速玉大社の速玉大神坐像、夫須美大神像、京都・大將軍神社の男神坐像、静岡・伊豆山神社の男神立像など平安時代を代表する神像、京都・石清水八幡宮の童形神坐像など鎌倉時代の優品を展示いたします。(原田一敏)



図4 ●表着 白地小葵鳳凰模様二倍織 鎌倉時代・13世紀 神奈川・鶴岡八幡宮蔵 地紋に小葵文を、上紋に鳳凰文を織り出した二倍織物。十二単の表着だったと考えられる(展示期間 7/14～8/9)
図5 ●男神坐像 平安時代・9世紀 京都・松尾大社蔵 当時の貴族の装束である冠と袍を着ける。神像彫刻では最古とされる。

第62回式年遷宮記念 特別展 伊勢神宮と神々の美術

7月14日(火)～9月6日(日) 東京国立博物館 平成館特別展示室第3・4室

観覧料：一般1,400円(1,100円/900円)、大学生1,000円(700円/600円)、高校生700円(500円/400円) ※()内は前売/20名以上の団体料金 ※中学生以下は無料です。入館の際、年齢のわかるものをご提示ください ※障害者とその介護者1名の入館は無料。入館の際に障害者手帳などをご提示ください ※特別展「染付—藍が彩るアジアの器」(7/14～9/6)とのセット券：一般1,600円(1,300円)、大学生1,200円(900円)、高校生800円(700円) ※()内は前売料金

お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル) ※2009年9月19日(土)～11月9日(月) 大阪歴史博物館へ巡回予定

主催：東京国立博物館、社団法人霞会館、産経新聞社 特別協力：神宮司庁 後援：フジサンケイグループ 協賛：JR東海、近畿日本鉄道 協力：神社本庁、伊勢神宮式年遷宮広報本部、東京都神社庁、皇學館大学、日本航空、日本通運

これだけは
見逃せない!
おすすめの
この1点

紙の裏に貴重な資料

国宝 上野国交替実録帳残卷(延喜式卷第三十二紙背)

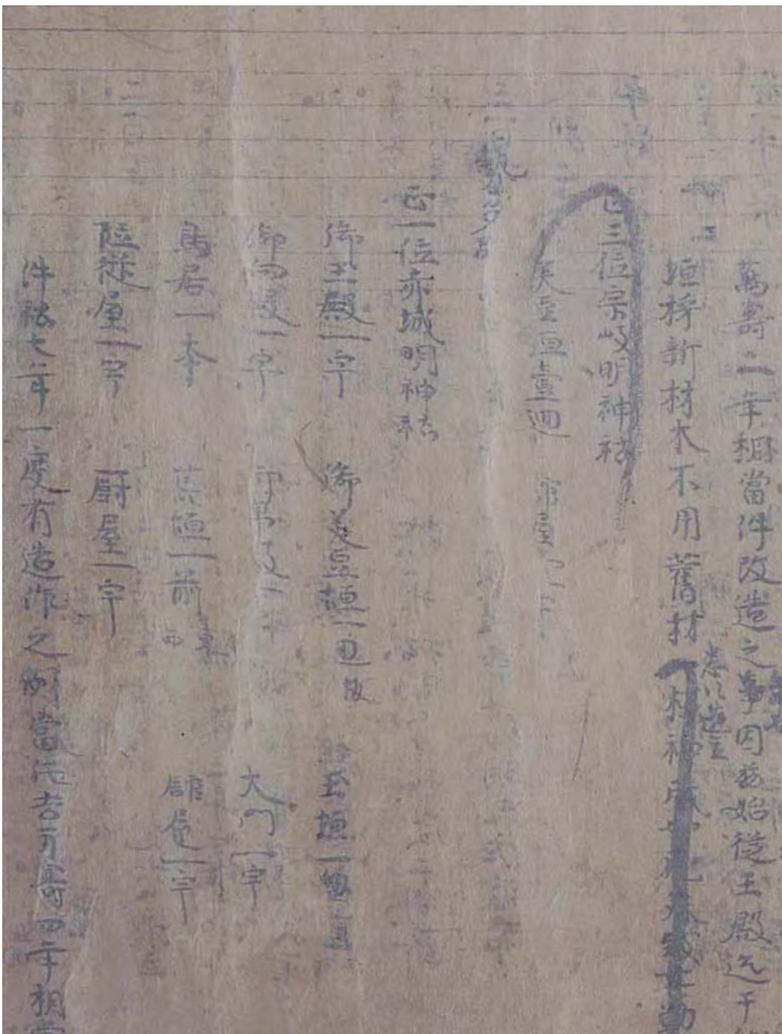
7月14日(火)～8月23日(日) 本館2室 国宝室

『延喜式』は古代律令国家における施行細則を、全五十巻に集大成したものです。醍醐天皇の勅命を受けてから、二十年あまりをかけて延長五年(九二七)に完成しました。この東京国立博物館に所蔵されるものは、五撰家の一つに数えられる九条家に伝来した写本です。巻六・七(乙本)が十三世紀、巻第四十二が十四世紀書写と推定される以外は、巻二十六～二十八の三巻が十世紀末の書写、残りの二十二巻が十一世紀の書写と推定されており、大半が平安時代にさかのぼる写本として重要です。伝来の途中に散逸し、二十八巻が現存しています。

この巻第三十二の紙背(紙の裏側)には、宝亀四年(七七三)太政官符案に続いて「上野国交替実録帳残卷」が収められています。下の図版は、いつの年のものか不明ながら、上野国(現在の群馬県)の国司の交替の際に、正税などの在庫や任国内についてのさまざまな情報を確認した交替実録帳の一部です。薄い膜が掛かったように文字

が見えにくくなっているのは、伝来するうちに保存状態が悪くなって修理した際に、紙背の全面に薄い裏打ちがほどこされたためです。後ろに透けて見えるのが『延喜式』の本文で、これが巻第三十二に当たります。文字が重なって見づらくなっていますが、「正一位赤城明神社」の名前に続けて「御玉殿」「御向殿」「鳥居」「陪從屋」などの文字が見え、当時の社殿の様子がうかがわれます。これは、当時の官吏の書を伝えるものとしても注目されます。

『延喜式』は反故となつたさまざまな文書などの紙を集めて書写したものです。手紙や文書は当事者同士が理解できれば事足りるもので、本来、用がすめば廃棄される運命でした。この巻にある太政官符案や交替実録帳は、紙が貴重な時代であり、それも『延喜式』という貴重な典籍を書写したものであったために残りました。このほか、巻三十九紙背には源兼行(高野切)第二種の筆者)の書状などがあり、表裏ともに貴重な遺品です。(鳥谷弘幸)



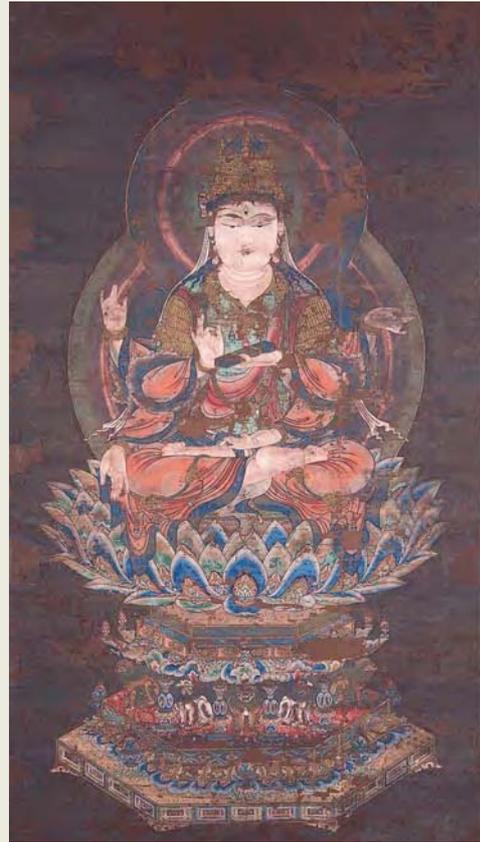
●上野国交替実録帳残卷(延喜式卷第三十二紙背) 平安時代・11世紀
領内の赤城明神社の社殿に関する記述が読める

平成20年度 新収品

5月19日(火)～6月14日(日)
本館特別1・2室

平成20年度は寄贈や購入などにより、410余件の作品が新たに東京国立博物館の収蔵品となりました。前号に引き続き、新収品の中から絵画1点、能面2点をご紹介します。

孤高の仏画 重文 般若菩薩像



◎般若菩薩像 鎌倉時代・13世紀
他に単独で描かれた例のない異色の仏画

信仰の対象として絵に描かれたほとけの種類が多さ、その豊かさは日本の仏教絵画の特徴のひとつといえますが、この画像はその中でも特に珍しい、いわば孤高の存在ともいえるものです。般若菩薩は密教のほとけの画像の根本となる両界曼荼羅のうち、胎藏界曼荼羅の中心に近い持明院の中心に位置し、格としては高く、仏母あるいはその名の通り般若心経に関わる尊像であったようです。しかしながら、単独で信仰されたことがあまりなかったらしく、本格的な作品としては、京都・醍醐寺に般若菩薩を中心とした曼荼羅形式でえがかれた画像がある他は、このように単独像は例がなく、貴重な作品です。

強くしなやかな筆線、また、明るく平明な色彩でいどころられています。それでありながら台座の部分など、なかなかの構成力をもった画面が魅力的です。明治42年(1909)指定重要文化財。大阪・護国寺旧蔵。絹本着色。(小林達朗)

品格のある叟面 能面 翁・三番叟

翁舞は、本来三人の翁(神)が順々に舞って、五穀豊穡、子孫繁栄等を寿ぐものでした。今は、一番目の翁は省略されて露払いとして千歳舞が舞われ、つぎに翁、そして三番叟が登場します。三番叟は三番目の叟という意味です。翁と三番叟の仮面の作例は、全国の神社、能楽を演ずる座に残っています。その特色は、皺を顔の全面に刻み、目は微笑むようにへの字に表わし、眉は「ぼうぼう眉」と言って丸くふさふさとさせ、ひげを植えることです。そして、口の上下で切り離して、紐で結ぶ切顎という技法を用いることが大きな特色です。翁舞に先行する舞楽の面でよく用いられる技法で、その影響を受けたものと考えられます。新たに収蔵品となったこの翁面は、頬骨が強く張り出し、鼻の両脇を深く彫りこむなど抑揚のある彫刻が魅力です。三番叟は滑稽味を含む役柄のため、少し下卑た顔に表わされることが多いのですが、この面は品格を保っています。(浅見龍介)



▲能面 翁
南北朝～室町時代・14～15世紀
抑揚に富む彫りが、表情に深みを与えています

▶能面 三番叟
室町～安土桃山時代・15～16世紀
小さな目と口ひげが、親しみを感ぜさせます



平成館企画展示室

日本の文化大使

特集陳列

「海外の日本美術品の修復」

5月26日(火)～6月7日(日)

海外に所在する日本の古美術品は、日本文化を紹介する文化大使ともいえるべき役割を担っています。しかしながら、そのなかには、気候風土の違いなどから損傷が進み、公開に支障をきたしている作品も少なくありません。文化庁、外務省、国際交流基金、東京文化財研究所では共同で、平成三年度から海外の美術館・博物館が所蔵する絵画作品を対象に在外日本古美術品保存修復協力



松に孔雀図屏風 江戸時代・17世紀
カナダ・グレーター・ヴィクトリア美術館蔵

【展示作品】	
松に孔雀図屏風	江戸時代・17世紀 カナダ・グレーター・ヴィクトリア美術館蔵
虫歌合絵巻	江戸時代・17世紀 イタリア・ローマ国立東洋美術館蔵
星曼茶羅図	江戸時代・18世紀 カナダ・バンクーバー博物館蔵
住吉蔭繪文台	江戸時代・17世紀 イギリス・ヴィクトリア&アルバート美術館蔵
花鳥紋章蔭繪桶	江戸時代・17世紀 イギリス・アシュモリアン美術館蔵

事業を始めました。その後、平成九年度からは対象を漆工品にも拡大するとともに、平成十三年度からは東京文化財研究所が事業主体となってこれを推進しています。また、平成十八年度からはドイツのケルン東洋美術館に漆工品の修復工房を開設し、平成二十年度からはベルリンのドイツ技術博物館に絵画作品の修復工房を開設して、日本から専門家を派遣して修復を行っています。今回の展示では、日本へ戻りさせて、国内の工房で平成二十年度末に修復が完了した作品のうち、絵画三件と漆工品二件を公開いたします。この展示を通じ東京文化財研究所の国際協力の一端をご理解いただければ幸いです。(津田徹英)

住吉蔭繪文台 江戸時代・17世紀
イギリス・ヴィクトリア&アルバート美術館蔵



平成館企画展示室

世界のかたちを求め、伝える

特集陳列

「世界図と日本図」

6月16日(火)～7月26日(日)

十五世紀以降、ヨーロッパ人の世界周航が始まると、その探検や調査によって得られた情報に基づいて世界全体の地図が作られるようになりました。イエズス会宣教師マテオ・リッチ(利瑪竇)が十七世紀初頭に中国で制作した「坤輿万国全図」はその代表です。折しも戦国の動乱を抜け出し、より広い世界との交流を始めた日本にもたらされ、地理的知識の普及に大きな役割を果たしました。また、江戸時代になって社会が安定すると、日本の姿も的確にとらえられるようになり、日本全体を描いた地図もさかんに作られました。今回は数としては小規模な展示ですが、昨年当館に寄贈いただいた屏風形式の「坤輿万国全図」のお披露目を兼ねて、主として江戸時代に制作された世界図と、同時に発達した日本図の事例をご紹介します。世界図における日本の描き方にもご注目いただけると、より興味深くご覧になれるでしょう。(田良島哲)



坤輿万国全図屏風 江戸時代・18～19世紀 万木良平氏寄贈 日本のかたちにご注目を

いくさびとの実像に迫る

特集陳列「戦う武士の世界」

6月24日(水)～7月20日(月・祝)

武士は平安時代の中頃に、貴族や寺社などの貴人に仕えるボディガードとして活躍しました。鎌倉時代以降は、政治の担い手として日本の歴史を動かしてきました。教科書には沢山の武士の名前が登場し、歴史を扱ったテレビ番組や時代劇でも、彼らの生涯や様々なエピソードにふれる機会が多く、私たちはそれではないのでしょうか。しかし現実の武士はどうだったのでしょうか。古来、「つわもの」「ものものふ」や「いくさびと」と呼ばれてきた武士本来の役割は、「戦い」にありました。そこでこの特集では「戦う武士」をキーワードにして、肖像画(模本)・甲冑・武家の装束とともに、武士が認めた書状・古文書を展示しま



貳枚胴具足 安土桃山時代・16世紀
明智光秀の娘婿左馬助が使ったと伝えられる甲冑。
ウサギの耳をかたどった兜が特徴

す。当時の武士が戦いに際してどのような装束を身にかけたのか、また有名な合戦の前後にどんなことを書き残したのかをご覧ください。だき、豊臣秀吉、上杉謙信などおなじみの武士たちの実像に迫ります。
(高梨真行)

◎陣羽織 狸々緋羅紗地違鎌文 安土桃山時代・16世紀
豊臣秀吉の甥、小早川秀秋所用と伝えられる陣羽織。
戦場でも目立つ色彩と意匠に武士の威厳が感じられる



武士道から生まれたデザイン

特集陳列「武家の服飾」

6月24日(水)～7月20日(月・祝)

武士が宮廷貴族にかわって、政治の表舞台に立ったのは、鎌倉幕府が成立して以降のことです。当初は正装には宮廷貴族と同様の束帯を用いていた武士ですが、時代が下るにつれて、直垂・素襖といった武家独特の装束の威儀を正して用いるようになりました。戦に欠かせない鎧直垂や陣羽織には、動物の毛や南蛮貿易を通して輸入された異国の裂や服飾品が用いられ、晴れの舞台であった合戦に華麗に出陣したのです。一方、武士の妻や娘たちの衣装は、宮廷女性が着用した桂の代わりに小袖



打掛 紅綸子地流水菊葵梅模様 江戸時代・18世紀
紀州徳川家の奥様、貞恭院(種姫)着用の華麗な打掛

を表着として打ち掛け、袴を省略した着装に変化しています。江戸時代後期には、小袖や帯のデザインは武家女性独特の様式が確立し、町の女性では到底着用できないような華やかな刺繍や織物の打掛が用いられました。安土桃山時代の武将、および、江戸時代後期の大奥の女性たちの服飾を中心に、武士道の中に息づく育まれた武家独特の服飾文化をご覧ください。
(小山弓弦葉)



陣羽織 黒鳥毛揚羽蝶模様
安土桃山時代・16世紀 鶴田泰雄氏寄贈
鳥毛を貼り並べて揚羽蝶模様を表したデザインにびっくり!?

歴史を伝えるシリーズ

特集陳列「年中行事」

6月9日(火)～7月26日(日)

年中行事とは、毎年特定の季節、日時に繰返し行われる行事のことをいいます。日本の年中行事は、稲作社会を背景に成り立ちました。八世紀から九世紀にかけて、年中行事は天皇を頂点とする国家の儀式体系として整備され、「延喜式」神祇部にも記されています。このように宮中行事として行われていた年中行事は、時代により移り変わってきました。

やがては武家や寺社においても年中行事が行われるようになり、江戸時代には、幕府による年中行事が町人や商人にまで影響を及ぼし、広く一般に普及しました。今回の特集では、「年中行事絵巻」に描かれた蹴鞠や毬杖に関する資料に加え、五月人形など、遊びや季節にちなんだ作品を紹介いたします。(高橋裕次)



五月人形(鎧・鍾馗・神武天皇・源頼義・加藤清正) 5月5日、端午の節句に飾る人形たち
大正15年(1926)～昭和4年(1929) 峯島茂兵衛氏寄贈

当代工芸の粋を集めよ

特集陳列「内国勸業博覧会の工芸」

6月16日(火)～9月6日(日)

明治時代を迎えると政府は殖産興業・輸出振興の国策を打ち立て、明治六年(一八七三)のウィーン万国博覧会をはじめ海外で開催された多くの博覧会に参加しました。内国勸業博覧会は、ウィーン万博にならって開催されたもので明治十年(一八七七)から明治三十六年

黒田記念館2階展示室

家族の肖像とアトリエ

特集陳列「写された黒田清輝Ⅱ」

7月9日(木)まで

※毎週木・土曜日13時～16時公開(入館無料)

黒田記念館2階展示室では、七月九日(木)まで、特集陳列「写された黒田清輝Ⅱ」を開催しています。黒田清輝夫人照子のご遺族より、平成十八、十九年度に黒田清輝関係の写真や遺品などが寄贈されたのを受け、東京文化財研究所ではこれらの資料の来歴や関連事項について調査を進めています。その成果として、今年度は「家族の肖像」と「画家のアトリエ」をテーマに展示を行います。代表作「湖畔」をはじめ、黒田

蓮に鶯図花瓶 孝一作
明治10年(1877)頃
第1回内国勸業博覧会出品



(一九〇三)まで東京、京都、大阪で五回開催されました。最初は産業博覧会的な趣が強かったようですが、次第に技術を極めた美術的なものが求められるようになったため、明治の工芸を代表するような優品が

数多く出品されました。今回はこの内国勸業博覧会に出品された陶磁、漆工、金工、ガラス工芸の品々を展示します。そのすぐれた技をぜひご覧ください。(加島勝)



▲寄贈目録064「照子夫人ポートレート」
江崎礼二撮影 1900年4月3日
後に黒田夫人となる照子の「湖畔」のモデルとなった頃の写真です

◀湖畔 黒田清輝筆
明治30年(1897)



は夫人や家族をモデルに多くの作品を描いています。また、アトリエの写真は、作品が生み出される場を写しだしています。「湖畔」など写真の被写体となった家族をモデルに描いた絵画作品もあわせてご覧いただけます。(山梨絵美子)



本館7室

江戸文化誕生期の活気を伝える
重文 歌舞伎図屏風
菱川師宣筆

6月2日(火)～7月12日(日)



◎歌舞伎図屏風 菱川師宣筆 江戸時代・17世紀
あわただしくも活気あふれる舞台裏の様子

芝居小屋と楽屋、その背後にあった芝居茶屋を描いた屏風です。小屋の櫓に掲げられた銀杏の紋と入り口の役者名を書いた看板から、元禄五年(一六九二)以降の江戸四座の一つ中村座の様子を描いたものとわかります。日本の伝統芸能を代表する歌舞伎は、京都で出雲阿国によりはじめられました。やがて江戸に伝わり、豪快で華やかな元禄歌舞伎の時代を迎えると、江戸独自の文化として発展していきます。描いたのは、やはり江戸の文化を代表する浮世絵

本館8室

友へ贈る絵が送別の絵となる
重文 松巒古寺図
田能村竹田筆

6月2日(火)～7月12日(日)



◎松巒古寺図 田能村竹田筆
江戸時代・天保4年(1833)

豊後竹田(大分県南西部)の岡藩藩士であった竹田(一七七七～一八三五)は学問を究め、書画、和歌音曲など多彩に活動しました。京坂を幾度も往復して多くの文人墨客と交わり、なかでも当代随一の大学者で芸術にも造詣の深い頼山陽とは篤く交友しました。

この絵は山陽の求めに応じて描かれましたが、上京して山陽に手渡す途上に、友の死を知ることになりました。竹田は二人でこの絵をみながら、淡く清しい色で彩られた端整な山の中に入りこみ、松林が続く山道を歩き、時を忘れて語らうことを思い浮かべたのかも知れません。(松嶋雅人)

本館8室

即興的な手法が生んだ逸品
重文 鼠志野鶴鶴文鉢

5月19日(火)～8月2日(日)



◎鼠志野鶴鶴文鉢 美濃
安土桃山～江戸時代・16～17世紀
口縁を大きくためた力強く大胆な造形も見どころです

らわし、笹を描き加えています。即興的な手法を高く評価する茶人と陶工との絶妙の呼吸から生み出された作品です。(今井敦)

美濃(現在の岐阜県の土岐市、多治見市、可児市一帯)では安土桃山時代の末から江戸時代の初頭にかけて志野、織部など優れた食器が生産されました。通常の志野は白い長石釉の下に鉄絵具で描かれた文様がほのかに見え隠れしますが、下地に鉄分の多い鬼板を施し、その上から白い釉を掛けたのが鼠志野です。偶然にできた鬼板の掛け残しを岩に見立て、鬼板を削り落として鶴鶴と波をあ

本館11室

繊細で装飾性に富んだ仏像
重文 菩薩立像

7月20日(月・祝)まで



◎菩薩立像 鎌倉時代・13世紀

鎌倉時代には、この菩薩像のように繊細で装飾性に富んだ作品がしばしば見られます。金泥塗りの細身の体をゆつたりとくねらせ、そこに優雅に流れるような天衣をまとい、左

肩にかけると、下半身に着ける裾の襷は変化に富んでいます。衣には、彩色や精緻な鍍金文様が施され、銅製の宝冠や肩に垂れた髪、胸飾は優れた技巧によるものです。唇に薄い水晶をはめる表現は他に例がなく、赤くつやかな様子はなまめかしいほどです。ふつくとした頬や細身の体つきなどは、仏師善円(一一九七～一二五八)の作風に通ずるものがあります。(丸山士郎)

本館
特別2室

見ればわかる！ 触って実感！
親子のギャラリー「日本美術のつくり方」
7月28日(火)～9月6日(日)

夏休み恒例、家族で楽しめる「親子のギャラリー」を開催します。今年のテーマは、「日本美術のつくり方」。日本の伝統的な美術作品には、いったいどうやって作ったのか、出来上がった作品を見ただけでは想像すらつかないものが多くあります。そこで、制作工程見本を展示し、作品ができるまでをわかりやすくご紹介します。取り上げるジャンルは、浮世絵、日本画(裏彩色)、仏像(一木造)、刀の鏝(布目象嵌)、色絵の皿の5つです。

展示室内には、さわれる展示コーナーを、1階20室ではだれでも簡単にできる多色版画など、ハンズオン体験コーナーを設けます。つくり方がわかれば、美術の見方もかわるはず。これからの美術鑑賞が何倍もおもしろくなること請け合いです。

*関連作品 | 国宝 一字金輪像 鎌倉時代・13世紀 7月28日(火)～9月6日(日) 本館3室
重文 聖観音菩薩立像 平安時代・9世紀 京都・醍醐寺蔵 7月22日(水)～10月12日(月・祝) 本館11室
富嶽三十六景・神奈川沖浪裏 葛飾北斎筆 江戸時代・19世紀 8月4日(火)～9月6日(日) 本館10室

本館
20室

親子のギャラリー
「日本美術のつくり方」関連企画

浮世絵版画制作実演「北斎の富士ができるまで」

木版多色摺りの浮世絵版画の名作、葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」の制作工程を実演いたします。ご自由にご見学ください。

日時:8月22日(土) 11:00～12:00

会場:本館20室 協力:アダチ伝統木版画技術保存財団

ファミリーワークショップ「北斎の富士ができるまで」

木版多色摺りの浮世絵版画の名作、葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」の制作工程を見学し、実際に摺ってみよう(体験は黒色一色のみとなります)。

日時:8月22日(土) 14:00～16:30

会場:本館20室 協力:アダチ伝統木版画技術保存財団

対象:小学校1年生以上およびそのご家族

定員:10組(応募者多数の場合は抽選)

参加費:無料(ただし、当日の入館料は必要です)

申込方法:往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで①参加者全員の氏名(ふりがな)とお子さんの学年 ②郵便番号・住所 ③電話番号(FAX番号) ④参加希望日をご記入の上、下記にお申込ください。

申込先:〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育普及室「ファミリー北斎」係 FAX:03-3822-3010

電子メール:edu@tnm.jp(件名に「ファミリー北斎」とご記入ください)

締切:8月7日(金)必着

「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」の主版(下)とできあがり(右)



平成館小講堂

歴史好きな中学生集合！

本館特別第1室

中学生のためのワークショップ「武士の手紙とオリジナル花押(サイン)作り」

特集陳列「戦う武士の世界」(6月24日(水)～7月20日(月・祝))にあわせて、武士の文化に焦点をあてたワークショップを行います。上杉謙信や前田利家、北条氏康などの戦国の武将が書いた手紙を見て、昔の手紙の決まりごとや、それぞれの性格をあらわすような筆遣いの特徴を見つけよう。自分たちでもその作法に従って手紙を書き、さらに、オリジナルの花押をデザインして、手紙を仕上げてください。

日時:6月28日(日) 13:00～16:00

会場:平成館小講堂・本館特別第1室

対象:中学生(ただし、特に歴史に興味のある方の場合、小5以上も可)

定員:20名(応募者多数の場合は抽選)

参加費:無料(ただし、当日の交通費・昼食は参加者の負担となります)

申込方法:往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで①参加者全員の氏

名(ふりがな)と学校名・学年 ②郵便番号・住所 ③電話番号(FAX番号)をご記入の上、下記にお申込ください。1回の申込で2名まで申込可。

申込先:〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育普及室「武士の手紙」係 FAX:03-3822-3010

電子メール:edu@tnm.jp(件名に「武士の手紙」とご記入ください)

締切:6月12日(金)必着

平成館小講堂

ファミリーワークショップ
「からだ動くエビを作ってみよう」

本館8室

本館8室で展示される、「自在置物」(体の各部を動かすことのできる動物の置物)を見て、自在エビを作ってみよう。当館で毎年、大好評のプログラムです。家族で力をあわせて、からだの動くエビを作ってください。

日時:8月15日(土)・16日(日) 各日13:00～17:00

会場:平成館小講堂・本館8室

対象:小学生およびそのご家族 定員:各回10組(応募者多数の場合は抽選)

参加費:無料(ただし、当日の入館料は必要です)

申込方法:往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで①参加者全員の氏名(ふりがな)とお子さんの学年 ②郵便番号・住所 ③電話番号(FAX番

号) ④参加希望日をご記入の上、下記にお申込ください。

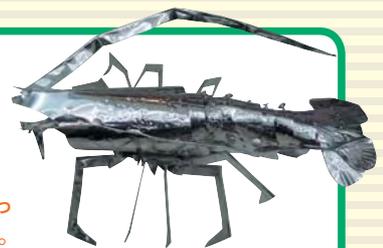
申込先:〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育普及室「自在エビワークショップ」係

FAX:03-3822-3010

電子メール:edu@tnm.jp(件名に「自在エビ」とご記入ください)

締切:7月31日(金)必着

▶アルミ板で作る自在エビ。作る人によって、少しずつ表情が変わります



平成館 小講堂

こどもたちのアートスタジオ

「根付作り」

本館10室にある根付を見学した後に、粘土を加工してオリジナル根付を作ります。

日時:7月20日(月・祝)13:30~15:30 会場:平成館小講堂

「勾玉作り」

平成館考古展示室にある勾玉を見学した後に、滑石を削って勾玉を作ります。

日時:8月9日(日)13:30~15:30 会場:平成館小講堂

対象:小学校3年生から高校生 ※保護者の方の見学も可能です(ただし平常展入館料が必要です)

定員:勾玉、根付、各10名程度

参加費:無料(ただし、当日の入館料は必要です)

申込方法:往復はがきの「往信用裏面」に、ご希望のコースと日程「根付作り 7月20日」または「勾玉作り 8月9日」と、郵便番号・住所・参加される方のお名前(ふりがな)・学年・電話番号・保護者が一緒の場合はその人数、「返信用表面」に、返信先の郵便番号・住所・氏名を明記し下記までお申込下さい。

申込先:〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 ボランティア室

締切:「根付作り」7月6日(月)必着、「勾玉作り」7月27日(月)必着
※締切の後、参加券をお送りします。なお、応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

日本美術や博物館に興味のある高校生集合!

高校生のための連続講座「日本の伝統もよう」(全3回)

東京国立博物館では高校生のための連続講座を毎年開設しています。今回のテーマは「日本の伝統もよう」。展示作品の鑑賞と伝統もようをアレンジしたオリジナルデザインの皿作りなどのワークショップを通して、博物館に親しみ、日本の伝統文化に触れてください。

日時:第1回 6月13日(土)10:00~15:00 日本のもようを見つけよう!

第2回 8月4日(火)10:00~15:00 伝統もようの皿づくり

第3回 8月25日(火)13:00~15:00 伝統もようについての発表

会場:平成館小講堂・本館ほか展示室

対象:高等学校および高等専門学校に在学中の生徒

※ただし、3回連続して通える方に限ります

定員:10名(先着順)

受講料:無料(ただし、当日の交通費・昼食は参加者の負担となります)

申込方法:往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで①プログラム名「高



▲伝統もようのお皿づくり

校生のための連続講座)②氏名(ふりがな)③学校名・学年④郵便番号・住所⑤電話番号(FAX番号)をご記入の上、下記にお申込ください。

申込先:〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育普及室「高校生講座」係

FAX:03-3822-3010

電子メール:edu@tnm.jp(件名に「高校生講座」とご記入ください)

締切:6月6日(土)必着(定員に達した時点で締め切り)

月例講演会

「古墳時代の人々—人物埴輪の表情と所作—」

平成館考古展示室で行う同名の特集陳列(3月17日~9月6日)に関連した講演会です。

講師:日高慎(保存修復課保存修復室主任研究員)

日時:6月13日(土)13:30~15:00(開場13:00)

会場:平成館大講堂

定員:380名(当日先着順) 聴講無料(ただし当日の入館料は必要)

「戦国時代の小田原城—発掘調査の成果から実像に迫る—」

本館特別1・2室の特集陳列「戦う武士の世界」及び「武家の服飾」(6月24日~7月20日)に関連した講演会です。

講師:山口剛志氏(小田原市教育委員会)

日時:7月11日(土)13:30~15:00(開場13:00)

会場:平成館大講堂

定員:380名(当日先着順) 聴講無料(ただし当日の入館料は必要)

教育イベント 狂言

本館9室の特集陳列「狂言の面・装束」(7月22日~9月13日)に関連して、狂言の公演を行います。

曲目:「蚊相撲」・「神鳴」・「蟹山伏」および演者による解説

出演:山本東次郎家

日時:8月12日(水)13:30~15:30

会場:平成館大講堂

定員:380名(申込制) 無料(ただし当日の入館料は必要です)

申込方法:往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記して下記までお申込ください。

申込先:〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育講座室教育イベント係

*1枚の往復はがきが最大2人まで応募可。2人の場合はそれぞれの氏名を必ず明記のこと。応募多数の場合は抽選の上参加券をお送りします。

*記述不備があった場合は落選とさせていただきます。

申込締切:7月17日(金)必着

列品解説

6月2日(火)14:00~14:30

田沢裕賀(絵画・彫刻室長)本館10室 「東都宮戸川之図」をめぐって

6月9日(火)14:00~14:30

小泉恵英(平常展調整室長)本館特別5室 仏像の道

6月16日(火)14:00~14:30

木下史青(デザイン室長)平成館彫刻ギャラリー 国立博物館がロダン作・エヴァを買ったわけ

6月30日(火)14:00~14:30

小山弓弦葉(特別展室主任研究員)本館特別2室 武家の服飾—戦う武士の装い、大奥のファッション—

7月7日(火)14:00~14:30

高梨真行(書跡・歴史室研究員)本館20室 戦う武士の世界

7月14日(火)14:00~14:30

酒井元樹(工芸・考古室研究員)本館13室 中世における京鍛冶について

7月24日(金)18:30~19:00

田良島哲(登録室長)平成館企画展示室 世界図と日本図

7月28日(火)14:00~14:30

丸山士郎(情報管理室長)本館12室 二体の大日如来像と運慶様の彫刻

7月31日(金)18:30~19:00

沖松健次郎(特別展室主任研究員)本館20室 参詣曼荼羅

INFORMATION

イベント開催のお知らせ

関孝弘ピアノコンサート

#イタリアと日本を結ぶ、透徹された響きの美しさ#

日時 7月5日(日)開場14:30 開演15:00
 会場 平成館ラウンジ
 出演 関孝弘
 曲目 ガルツピ:ピアノ・ソナタ「エレナ」/ショパン:ポロネーズト短調遺作ほか
 料金 一般 4,500円(全席自由) ※友の会・キャンパスメンバーズ割引 3,500円
 ※コンサート料金で、当日の平常展をご観覧いただけます。
 主催 東京国立博物館/サロン・ド・ソネット

チケットのお求め方法

●当館正門観覧券売場でのチケット販売

受付 開館日の9:30～閉館30分前まで

●電話予約販売

申込先 東京国立博物館 総務課イベント担当 TEL 03-3821-9270
 受付時間 月曜日～金曜日の9:30～17:00(祝休日、6月23日は除く)
 引換時間 公演当日、9:30～当館正門観覧券売場にて現金引換えにてお渡しします。

～クラリネットの響きが彩る午後のひととき～

東京国立博物館 ファミリーコンサート

#東京クラリネット・クワイアーが、クラリネットだけの珍しい編成でお届けする名曲の数々#

日時 7月26日(日)①13:00～ ②15:00～
 場所 平成館大講堂
 出演 演奏:東京クラリネット・クワイアー 指揮:稲垣征夫
 曲目 J. シュトラウスII:ワルツ「ウィーンのボンボン」op.307ほか
 料金 無料(ただし当日の入館料は必要)※事前予約不要 先着380名
 主催 東京国立博物館/東京クラリネット・クワイアー
 問い合わせ 東京国立博物館 総務課イベント担当 TEL 03-3821-9270
 月曜日～金曜日 9:30～17:00(祝休日、6月23日は除く)
 ※各イベントの詳細は、当館ホームページでご確認ください。※お車でのご来館はご遠慮ください。

チケットプレゼントのお知らせ

◆第62回式年選官記念特別展「伊勢神宮と神々の美術」

本誌4～5ページで紹介した「伊勢神宮と神々の美術」展の招待券を抽選で10組20名様にプレゼントします。締切は7月12日(日)必着。

◆特別展「染付—藍が彩るアジアの器」

本誌2～3ページで紹介した「染付」展の招待券を抽選で10組20名様にプレゼントします。締切は7月12日(日)必着。

※プレゼントの応募方法

はがきに、住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、職業、希望賞品(「伊勢神宮と神々の美術」または「染付」招待券)、ならびにこの号でいちばん面白かった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。

〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館
 広報室「ニュース6・7月号」プレゼント係



TEL 03 3524 6113 1
 ※平常展料金でご覧いただけます。

◆東京国立博物館百五十年史編纂室設置!

二〇二二年、東京国立博物館は開館百五十年を迎えます。昨年七月、百五十年史刊行にむけてワーキンググループを発足させ、館史資料の調査、収集を進めています。今年三月には、その整理、研究を行うため、資料館の二階に編纂室を設置しました。

当館では、明治五年(一八七二)の創設以来、展示・収集・研究などの博物館活動に関わる多くの資料を所蔵しています。これまで館史資料として整備されてきたのは行政文書が中心でしたが、近年は、館内ネットワーク上の業務データや、eCGで公開している情報など、館史に関わる資料は膨大な量



左から佐藤館長、島谷学芸研究部長、湊副館長(当時)、金谷総務部長

に及んでいます。博物館の歩んできた歴史をふり返り、その教訓を生かしていくためには、さまざまな情報や記録について、その保存・活用の方法を検討する必要があります。これらの資料を広い視野から研究する体制を、将来に引き継いでいきたいと考えています。(高橋裕次)

◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館の活動を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究・平常展・施設整備等の充実にあてております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月末日まで)有効。賛助会員には、特別会員と維持会員との2種類があります。

年会費

特別会員 100万円以上
 維持会員 法人 20万円
 個人 5万円

主な特典

- 特別展の内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付
- *賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。
- *お問い合わせ
 東京国立博物館総務部 賛助会担当
 TEL 03-3822-1111(代)

東京国立博物館賛助会員 2009年4月20日現在

特別会員

日本電設工業株式会社様
 株式会社コア様
 株式会社精養軒様
 大日本印刷株式会社様
 株式会社毎日新聞社様
 株式会社大林組東日本本社様
 株式会社ホテルオークラエンタープライズ様
 株式会社ミロク情報サービス様
 読売新聞東京本社様
 三菱商事株式会社様
 凸版印刷株式会社様
 ブルガリジャパン株式会社様
 東芝国際交流財団様
 日本写真印刷株式会社様

維持会員

東京電力株式会社様
 朝日新聞社様
 株式会社東京放送様
 三菱電機ビルテクノサービス株式会社様
 早乙女節子様
 株式会社三冷社様
 宇津野和俊様
 伊藤信彦様
 井上萬里子様
 株式会社東京美術様
 数内匡人様
 服部禮次郎様
 株式会社鶴屋吉信様
 岩沢重美様
 高田朝子様

齋藤京子様
 齋藤邦裕様
 株式会社 安井建築設計事務所様
 務所様
 株式会社 ナガホリ様
 和田喜美子様
 松本建設株式会社様
 藤原紀男様
 関谷徳衛様
 高橋守様
 小澤桂一様
 上久保のり子様
 株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット様
 長谷川英樹様
 池田孝一様
 木村剛様
 観世あすか様
 コクヨファニチャー株式会社様
 星笠尚由様
 久保順子様
 渡辺章様
 福垣哲行様
 帖佐誠様
 株式会社 古美術藪本様
 飯岡雄一様
 峯村協成様
 牧美也子様
 高瀬正樹様
 坂井俊彦様
 寺浦信之様
 塚越香様
 高木美華子様

日本ハーデス株式会社様
 山岡ウウ子様
 古屋光夫様
 根田穂美子様
 松本澄子様
 鷲塚泰光様
 是常博様
 上野孝一様
 北山喜立様
 謙慎書道会様
 社団法人 全国学校栄養士協議会様
 山田泰子様
 近代書道研究所様
 田村久雄様
 日本畜産興業株式会社様
 高橋徹様
 栄田陸子様
 岡村安代様
 高橋良守様
 岡田博子様
 臼井生三様
 津久井秀郎様
 藤倉光夫様
 川澄祐勝様
 神通豊様
 永久幸範様
 五十嵐良和様
 石川公子様
 池田慶子様
 株式会社 東京書芸館様
 青山千代様
 藤崎英喜様
 永田実香様

西岡康宏様
 友景紀子様
 東野治之様
 辻泰二様
 高木聖鶴様
 竹下佳宏様
 松原聡様
 シチズンホールディングス株式会社様
 野澤智子様
 有賀浩治様
 吉田幸弘様
 野崎弘様
 坂田浩一様
 池谷正夫様
 池谷徳雄様
 脇兼一郎様
 高谷光宏様
 青山道夫様
 杉原健様
 木谷麒二郎様
 木村則子様
 インフコム株式会社様
 渡久地ツル子様
 汐崎正様
 関哲夫様
 堤勝代様
 山下由紀子様
 平井千恵子様
 秦芳彦様
 田中千秋様
 学校法人 大勝学院園様
 小西啤也様
 澁谷洋志様

山下照夫様
 小澤祐子様
 仙石哲朗様
 中井伸行様
 高見康雄様
 田中望様
 三井速雄様
 坂詰貴司様
 吉田靖様
 有限会社 システム設計様
 松本雅彦様
 明珍素也様
 伊藤喜雄様
 井上雄吉様
 狩野祐光様
 大森雅子様
 鈴木宗鶴様
 折越卓哉様
 渡辺恭昌様
 平野京子様
 安田和正様
 細川要子様
 鈴木幸一様
 武藤剛志様
 秋元文子様
 土師詔三様
 上塚建次様
 櫛田良豊様
 株式会社 インターネットイニシアティブ様
 鏡賢志様

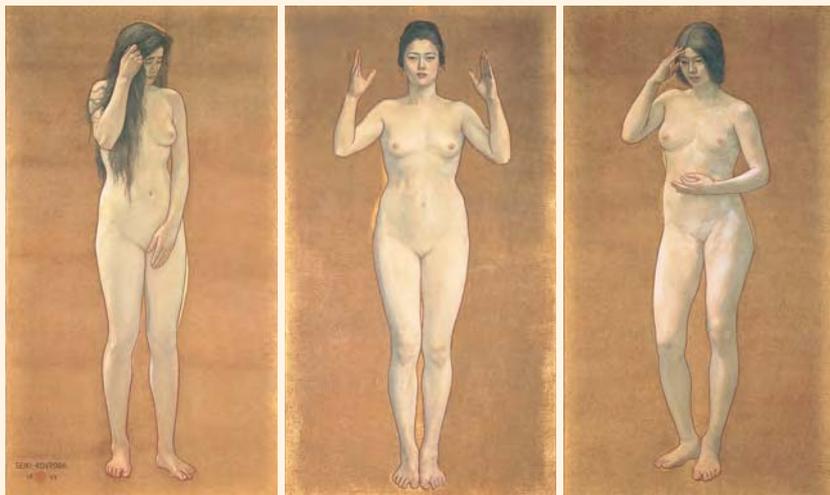
(ほか59名3社、順不同)

TOPICS

◆共催展「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展」開催

（会場）島根県立石見美術館
（会期）7月18日（土）～8月31日（月）

黒田清輝の功績を記念し、あわせて地方文化の振興に資するために、昭和五十二年（一九七七）から年一回、開催館と共催で行っている「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展」。平成二十一年度は、島根県立石見美術館で開催します。重要文化財「湖畔」「智・感・情」をはじめ油彩画・デッサン等一四七点、写生帖、書簡などが出品され、初期から晩年までの黒田清輝の画業を跡づける展覧となります。石見は、明治の文豪森鷗外の出身地です。鷗外は、美術批評も行い、裸体画論争のなかで第二回白馬会展に「智・感・情」が出品され、批評的になった際に、この作品に敬服していると発言しています。本展覧会にちなみ、石見美術館所蔵の明治大正期の美術作品も平常展として展示される予定です。あわせてご鑑賞ください。（山梨絵美子）



◎智・感・情 1899年 油彩・キャンパス 森鷗外は、1897年の第二回白馬会展に出品された本作について、「この作には敬服いたして居る一人である」と記しています。写真は、右から智・感・情

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 4,000円 学生 2,500円

発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、お好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

*建物の改修等のため、京都国立博物館平常展示館、東京国立博物館東洋館（2009年6月8日～）など一部展示館を閉館することがあります。

◆お申し込みは当館窓口、郵便振替または当館ホームページで

（郵便振替でのお申し込み先）

友の会

加入者名（振替先）東京国立博物館友の会

口座番号00160-6-406616

*振替用紙には職業・年齢・性別を楷書でご記入ください

パスポート

加入者名（振替先）東京国立博物館パスポート

口座番号00140-1-668060

*振替用紙には申込区分（一般か学生）、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入のうえ、生徒手帳か学生証のコピーを郵送またはFAXでお送りください

*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください

*振替手数料はお客様の負担となります

*郵便振替でのお申し込みには2週間かかります

◆お問い合わせ

TEL 03-3822-1111（代）友の会・パスポート担当

FAX 03-3821-9680

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間（6冊分）1,000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名（振替先）東京国立博物館ニュース

口座番号 00100-2-388101

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号を楷書でご記入ください

*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください

*振替手数料はお客様のご負担となります

*次号より送付ご希望の場合、締切は7月10日です

東京国立博物館メールマガジンのご案内

特別展・各種催し・展示替・ウェブ更新などの情報をいち早くお届けします *ご登録は<http://www.tnm.jp/>から

東京国立博物館利用案内

開館時間 9:30～17:00、2009年11月までの特別展開催期間中の金曜日は20:00まで、2009年3月28日（土）～9月の土・日・祝・休日は18:00まで（入館は閉館の30分前まで）。ただし、特別展「国宝 阿修羅展」開催期間中（6月7日まで）は、火・水・木は18:00まで、金・土・日・祝休は20:00まで開館。

休館日 毎週月曜日（祝日、休日の場合は翌日）、年末年始（12月28日～1月1日）。6月23日（火）は臨時休館。8月10日（月）は開館。

平常展観覧料金

一般600（500）円、大学生400（300）円

*（ ）内は20名以上の団体料金

*障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

*満70歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの（生徒手帳、健康保険証、運転免許証など）をご提示ください

*お申し込みの際にご提供いただいた個人情報は、当該の目的にのみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします

◆TNM&TOPPAN ミュージアムシアター

平成21年度の予定

※上映日と上映時間は本誌16ページをご覧ください。

・「ロシア皇帝の祈りの空間—ウズベンスキー大聖堂」

5月31日（日）まで

・「江戸城」

6月5日（金）～8月2日（日）

・「故宮」

8月7日（金）～9月27日（日）

・「国宝 聖徳太子絵伝」

10月2日（金）～11月1日（日）

・「灌頂幡 飛鳥の天人」

11月3日（火・祝）～12月27日（日）

・「洛中洛外図屏風（新作）」

1月2日（土）～3月28日（日）

右記期間中の毎週金・土・日・祝休日、一日六回上映。

一回三十席

◆MUSEUM 619号

（平成21年4月15日発行）の掲載論文

①「般若寺と春日大社の弓矢」酒井元樹（当館学芸研究部工芸・考古室研究員）

②「鳩小禽等図」（東京国立博物館所蔵）の在外作品について——鳥類写生図（大英博物館所蔵）を中心に——加藤弘子（東京芸術大学大学院博士後期課程）

《新収品紹介》「瑠璃釉白花花文大皿」三笠景子（当館学芸研究部保存修復室研究員）

《館史研究2》「東京帝室博物館学芸課日誌（仮称）」に見る戦時下の博物館——田良鳥哲（当館学芸研究部貸与特別観覧室長）



◆国立博物館の展示案内

〈京都国立博物館〉

特別展「シルクロード 文字を辿って——ロシア探検隊収集の文物——」

7月14日（火）～9月6日（日）

〈奈良国立博物館〉

特別展「聖地寧波——日本仏教1300年の源流～すべてはここからやって来た～」

7月18日（土）～8月30日（日）

〈九州国立博物館〉

興福寺創建1300年記念 特別展「国宝 阿修羅展」

7月14日（火）～9月27日（日）

東京国立博物館2009年6月・7月の展示・催し物

2009年
6月

2009年
7月

1 MON	休館日
2 TUE	時間延長(18:00まで) 列品解説「東都宮戸川の図」をめぐって」14:00 本館10室 15:00
3 WED	時間延長(18:00まで) 興福寺講座 11:30, 14:00, 16:00*1
4 THU	時間延長(18:00まで) 14:00
5 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
6 SAT	夜間開館(20:00まで) 11:00 13:30 14:00 15:00
7 SUN	国宝 阿修羅展 夜間開館(20:00まで) 14:00 14:30
8 MON	東洋館閉館 休館日
9 TUE	列品解説「仏像の道」14:00 本館特別5室
10 WED	14:00 14:30 14:30
11 THU	14:00 14:00 14:00 14:30
12 FRI	14:30
13 SAT	時間延長(18:00まで) 月例講演会「古墳時代の人々—人物埴輪の表情と所作—」13:30 平成館大講堂*2 高校生のための連続講座「日本の伝統もよう」10:00 平成館小講堂・本館ほか展示室*3 14:00 14:30
14 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00
15 MON	休館日
16 TUE	列品解説「国立博物館がロダン作・エヴァを買ったわけ」14:00 平成館彫刻ギャラリー 15:00
17 WED	
18 THU	14:00 14:30
19 FRI	15:00
20 SAT	時間延長(18:00まで) 11:00 13:30 14:00 15:00
21 SUN	時間延長(18:00まで) 12:30, 14:00 14:30 14:30
22 MON	休館日
23 TUE	臨時休館日
24 WED	14:00 14:30
25 THU	14:00 14:30
26 FRI	14:30
27 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00
28 SUN	時間延長(18:00まで) 中学生のためのワークショップ「武士の手紙とオリジナル花押(サイン)作り」13:00 平成館小講堂・本館特別第1室*4 14:00
29 MON	休館日
30 TUE	列品解説「武家の服飾—戦う武士の装い、大奥のファッション—」14:00 本館特別2室

1 WED	
2 THU	14:00
3 FRI	15:00
4 SAT	時間延長(18:00まで) 11:00 13:30 14:00 15:00
5 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 ♪関孝弘ピアノコンサート 15:00 平成館ラウンジ*5
6 MON	休館日
7 TUE	列品解説「戦う武士の世界」14:00 本館20室 15:00
8 WED	14:00 14:30 14:30
9 THU	14:00 14:00 14:30
10 FRI	14:30
11 SAT	時間延長(18:00まで) 月例講演会「戦国時代の小田原城—発掘調査の成果から実像に迫る—」13:30 平成館大講堂*6 14:00 14:30
12 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00
13 MON	休館日
14 TUE	染付—藍が彩るアジアの器展 列品解説「中世における京鍛冶について」 伊勢神宮と神々の美術展 14:00 本館13室
15 WED	
16 THU	14:00 14:30
17 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00
18 SAT	時間延長(18:00まで) 連続講座「東洋の染付」13:00 平成館大講堂*7 11:00 13:30 14:00 15:00
19 SUN	時間延長(18:00まで) 連続講座「東洋の染付」13:00 平成館大講堂*7 12:30, 14:00 14:30 14:30
20 MON	時間延長(18:00まで) 連続講座「東洋の染付」13:00 平成館大講堂*7 13:30
21 TUE	休館日
22 WED	14:00 14:30
23 THU	14:00 14:30
24 FRI	夜間開館(20:00まで) 列品解説「世界図と日本図」18:30 平成館企画展示室 14:30
25 SAT	時間延長(18:00まで) 記念講演会「古神宝について」13:30 平成館大講堂*8 14:00
26 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 ♪東京国立博物館ファミリーコンサート ①13:00 ②15:00 平成館大講堂*9
27 MON	休館日
28 TUE	列品解説「二体の大日如来像と運慶様の彫刻」14:00 本館12室 親子のギャラリー「日本美術の作り方」
29 WED	
30 THU	14:00
31 FRI	夜間開館(20:00まで) 列品解説「参詣曼荼羅」18:30 本館20室

- 👤=ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所：本館1階エントランス
- 👤=ボランティアによる浮世絵展示ガイド、集合場所：本館1階エントランス
- 👤=ボランティアによる陶磁エリアガイド、集合場所：本館1階エントランス
- 👤=ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所：本館1階エントランス
- 👤=ボランティアによる樹木ツアー、集合場所：本館1階エントランス
- 👤=ボランティアによる考古展示室ガイド、集合場所：平成館考古展示室入口
- 👤=ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、集合場所：法隆寺宝物館1階エントランス
- 👤=ボランティアによる茶会、集合場所：本館1階エントランス(一般及び大学生は参加費500円、先着30名、開始1時間前に集合場所で整理券配布)
- 👤=ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所：本館1階エントランス(先着20名、開始30分前に集合場所で整理券配布)
- 👤=ボランティアによる英語ガイド(本館ハイライト)、集合場所：本館1階エントランス
- 👤=ボランティアによるたのみの散歩ツアー、集合場所：本館1階エントランス
- 👤=ボランティアによるこどもたちのアートスタジオ(根付作りコース、事前予約制(抽選10名)、詳細は本誌13ページをご覧ください)

- 👤=黒田記念館閉館日、木曜・土曜13:00~16:00(夏期(7/11~9/3)は休館)
- 👤=ミュージアムシアター「江戸城」(6/5~8/2)上映 10:00 11:00 12:00 14:00 15:00 16:00 各回30名、集合場所：本館1階エントランス(詳細は当館ホームページでご確認ください)
- *1 特別展「国宝 阿修羅展」関連事業
- *2 特集陳列「古墳時代の人々—人物埴輪の表情と所作—」関連事業、詳細は本誌13ページをご覧ください
- *3 詳細は本誌13ページをご覧ください *4 詳細は本誌12ページをご覧ください
- *5 有料イベントです。詳細は本誌14ページをご覧ください
- *6 特集陳列「戦う武士の世界」及び「武家の服飾」関連事業、詳細は本誌13ページをご覧ください
- *7 特別展「染付—藍が彩るアジアの器」関連事業、事前申込制、受講料1,000円、詳細は2ページをご覧ください
- *8 特別展「伊勢神宮と神々の美術」関連事業、事前申込制、詳細は4ページをご覧ください
- *9 無料イベントです。詳細は本誌14ページをご覧ください
- * 上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください
- * 屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります

東京国立博物館 ニュース 第695号 平成21年6月1日発行(隔月1回偶数月発行) 編集/東京国立博物館広報室 ©東京国立博物館
発行/東京国立博物館 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 TEL 03-3822-1111(代表) *ホームページ(URL) http://www.tnm.jp/ 独立行政法人国立文化財機構ホームページ(URL) http://www.nich.go.jp/ 制作/美術出版社